

5 中学校 音楽科 問題用紙

(3枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

1 以下の1・2に答えなさい。

1 次の楽譜は、「ある楽曲」の第二楽章の冒頭部分を示したものです。このことに関して、以下の(1)～(6)に答えなさい。

kyosai-guild

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

(3枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

(1) 「ある楽曲」の楽曲名とその作曲者名を書きなさい。

(2) 西洋音楽史において、国民楽派と呼ばれる作曲者として適切なものを、次の(ア)～(エ)の中から2つ選び、その記号を書きなさい。

(ア) シベリウス (イ) ヴァーグナー (ウ) ベルリオーズ (エ) ムソルグスキー

(3) 次の(ア)～(オ)は、それぞれ何を意味していますか。書きなさい。

(ア) Largo (イ) a2 (ウ) dim. (エ) con sord. (オ) muta in Si b

(4) アルト記号とはどのようなものですか。書きなさい。

(5) Corno inglese とはどのような楽器ですか。その特徴を書きなさい。

(6) この楽譜を、次の【条件】に従って編曲し、解答欄の五線譜に書きなさい。

【条件】

- ① 無伴奏の混声四部合唱とすること。ただし、歌詞については記す必要はない。
- ② 拍子を変更しないこと。
- ③ 調と和音進行は変更しないこと。

2 知的財産権とはどのような権利ですか。書きなさい。

2 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 [第2学年及び第3学年] 内容 A 表現 (2) には、次のように示されています。

- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
- (ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり
- (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能
- (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能

ア、イ(イ)及びウ(ア)を基に、三味線を用いて指導する場合、どのような学習活動が考えられますか。次に示された生徒の状況を踏まえ、題材名を挙げて、3時間で扱う学習活動を書きなさい。

生徒の状況	<対象学年> 第3学年
	生徒はこれまでに、口唱歌を用いて箏を演奏する活動と、長唄「鳥羽絵」を歌唱する活動を行った。

(3枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

3 第1学年の歌唱の授業において、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌うことを指導することとします。生徒は、音高やリズムなどを正しく歌うことができます。しかし、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解することは十分ではありません。生徒が、どのように歌うかについて思いや意図をもつためには、どのような指導が考えられますか。具体例を2つ書きなさい。

4 平成29年3月告示の中学校学習指導要領 音楽 指導計画の作成と内容の取扱い 1 (5) には、次のように示されています。このことに関して、下の1・2に答えなさい。

(5) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

1 「学習活動を行う場合に生じる困難さ」とは、どのようなことですか。具体例を3つ書きなさい。

2 個々の生徒の困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫する際、音楽科の目標や内容の趣旨、学習活動のねらいを踏まえ、学習内容の変更や学習活動の代替を安易に行うことがないように留意するとともに、生徒の学習負担や心理面にも配慮する必要があります。音楽科における配慮として、どのようなものが考えられますか。書きなさい。

5

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち1)

受験番号		氏名	
------	--	----	--


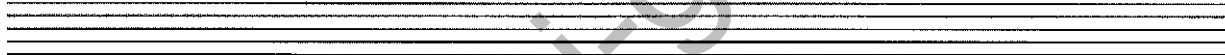


問題番号		解答欄	
1	(1)	楽曲名	
		作曲者名	
	(2)		
	(3)	(ア)	
		(イ)	
		(ウ)	
		(エ)	
		(オ)	
	(4)		
	(5)		

5

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち2)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
1	1 (6)	   
	2	

5

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち3)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号	解答欄	
2	題材名 ()	
	時間	学習活動
	※ 必要に応じて線を引いてもよい。	

5

中学校 音楽科 解答用紙

(4枚のうち4)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号		解答欄
3		
4	1	
	2	

中学校音楽科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
1	(1)	楽曲名	交響曲第9番ホ短調作品95「新世界から」	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
		作曲者名	ドヴォルジャーク		
	(2)	(ア), (エ)	順序は問わない。 2つとも合っているものだけを正答とする。	6	
	(3)	(ア)	ゆったりと遅く、広々とした気持ちで	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各5×5
		(イ)	2つで、ユニゾンで		
		(ウ)	だんだん弱く		
		(エ)	弱音器をつけて		
		(オ)	B♭管に持ち替える		
	(4)	第3線に書かれたハ音記号	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5	
	(5)	ダブル・リードを有する管楽器。普通のオーボエより完全5度低い。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5	
	(6)	※ 別紙 (計1枚)	問いを正しく捉えていれば、内容は異なってもよい。	40	
	2	知的な創作活動によって何かをつくり出した人に対して付与される他人に無断で利用されない権利。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5

96

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点								
2	<p>題材名 (楽器の音色の違いを感じ取り、三味線の特徴を理解して演奏しよう)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">時 間</td> <td style="text-align: center;">学 習 活 動</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第1時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・長唄「鳥羽絵」の一部を聴き、気付いたことや感じ取ったことを学級全体で共有する。 ・クラシックギターと三味線の音色の違いや、サワリの有無による三味線の響きの違いを聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に話し合う。 ○三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知り、実際に体験して、三味線の奏法への関心をもつ。 ・三味線を用いて、グループでいろいろな音の出し方を試しながら三味線らしい音色や響きを出すための音の出し方を考える。 ・三味線を弾くときの姿勢、ばちの当て方、勘所の押さえ方などを知り、三味線らしい音を確認めながら、実際に弾いてみる。 ・三味線の音色や響きと奏法との関わりについて分かったことを、ワークシートに書く。 ○三味線の「スクイ」と「ハジキ」の奏法を身に付ける。 ・姿勢、ばちの当て方、勘所の押さえ方、「スクイ」と「ハジキ」の奏法など、長唄「鳥羽絵」の一節を演奏するために必要な基礎となる奏法について互いに助言し合いながら、交替して演奏する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第2時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○長唄「鳥羽絵」の一節を三味線で演奏する。 ・学級全体で、長唄「鳥羽絵」の一節「ぬらりくらり」の部分を口唱歌で歌い、節回しや間、奏法を確認する。 ・グループで、三味線と口唱歌を交替しながら、「ぬらりくらり」の部分を演奏し、互いに助言し合う。 ○三味線の音色や奏法に気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近付けるためには、長唄「鳥羽絵」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・グループで、歌のみの音源に合わせて、「ぬらりくらり」の部分を演奏する。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏の音源を繰り返し聴き、自分たちとの演奏の違いに気付く。 ・三味線の音色や奏法、身体の使い方などに気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近付けるためにはどのように演奏したらよいかを、グループで話し合っ工夫し、必要に応じてワークシートの楽譜に書き込む。 ・グループで話し合ったことを参考に、どのように演奏するかについての自分の思いや意図をワークシートに書き、再度演奏する。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第3時間目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○長唄「鳥羽絵」の一節を演奏する。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を聴き、グループごとに前時までの学習を振り返る。 ・グループ同士で互いに演奏し合い、聴き合う。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を参考にしながら、「三味線らしい音色で、長唄の雰囲気が表現できているか」という観点で、自分の演奏を振り返ったり、他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりする。 ○題材の振り返りをする。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ・振り返ったことについて学級で意見交換し、本題材を学習したことの価値を共有する。 ・学級全体で、「ぬらりくらり」の部分を演奏する。 </td> </tr> </table>	時 間	学 習 活 動	第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・長唄「鳥羽絵」の一部を聴き、気付いたことや感じ取ったことを学級全体で共有する。 ・クラシックギターと三味線の音色の違いや、サワリの有無による三味線の響きの違いを聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に話し合う。 ○三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知り、実際に体験して、三味線の奏法への関心をもつ。 ・三味線を用いて、グループでいろいろな音の出し方を試しながら三味線らしい音色や響きを出すための音の出し方を考える。 ・三味線を弾くときの姿勢、ばちの当て方、勘所の押さえ方などを知り、三味線らしい音を確認めながら、実際に弾いてみる。 ・三味線の音色や響きと奏法との関わりについて分かったことを、ワークシートに書く。 ○三味線の「スクイ」と「ハジキ」の奏法を身に付ける。 ・姿勢、ばちの当て方、勘所の押さえ方、「スクイ」と「ハジキ」の奏法など、長唄「鳥羽絵」の一節を演奏するために必要な基礎となる奏法について互いに助言し合いながら、交替して演奏する。 	第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○長唄「鳥羽絵」の一節を三味線で演奏する。 ・学級全体で、長唄「鳥羽絵」の一節「ぬらりくらり」の部分を口唱歌で歌い、節回しや間、奏法を確認する。 ・グループで、三味線と口唱歌を交替しながら、「ぬらりくらり」の部分を演奏し、互いに助言し合う。 ○三味線の音色や奏法に気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近付けるためには、長唄「鳥羽絵」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・グループで、歌のみの音源に合わせて、「ぬらりくらり」の部分を演奏する。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏の音源を繰り返し聴き、自分たちとの演奏の違いに気付く。 ・三味線の音色や奏法、身体の使い方などに気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近付けるためにはどのように演奏したらよいかを、グループで話し合っ工夫し、必要に応じてワークシートの楽譜に書き込む。 ・グループで話し合ったことを参考に、どのように演奏するかについての自分の思いや意図をワークシートに書き、再度演奏する。 	第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○長唄「鳥羽絵」の一節を演奏する。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を聴き、グループごとに前時までの学習を振り返る。 ・グループ同士で互いに演奏し合い、聴き合う。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を参考にしながら、「三味線らしい音色で、長唄の雰囲気が表現できているか」という観点で、自分の演奏を振り返ったり、他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりする。 ○題材の振り返りをする。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ・振り返ったことについて学級で意見交換し、本題材を学習したことの価値を共有する。 ・学級全体で、「ぬらりくらり」の部分を演奏する。 	<p>題材名及び学習活動は、問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	65
時 間	学 習 活 動										
第1時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○三味線の音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。 ・長唄「鳥羽絵」の一部を聴き、気付いたことや感じ取ったことを学級全体で共有する。 ・クラシックギターと三味線の音色の違いや、サワリの有無による三味線の響きの違いを聴き比べ、聴き取ったことや感じ取ったことを自由に話し合う。 ○三味線の音色や響きと楽器の構造や奏法との関わりを知り、実際に体験して、三味線の奏法への関心をもつ。 ・三味線を用いて、グループでいろいろな音の出し方を試しながら三味線らしい音色や響きを出すための音の出し方を考える。 ・三味線を弾くときの姿勢、ばちの当て方、勘所の押さえ方などを知り、三味線らしい音を確認めながら、実際に弾いてみる。 ・三味線の音色や響きと奏法との関わりについて分かったことを、ワークシートに書く。 ○三味線の「スクイ」と「ハジキ」の奏法を身に付ける。 ・姿勢、ばちの当て方、勘所の押さえ方、「スクイ」と「ハジキ」の奏法など、長唄「鳥羽絵」の一節を演奏するために必要な基礎となる奏法について互いに助言し合いながら、交替して演奏する。 										
第2時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○長唄「鳥羽絵」の一節を三味線で演奏する。 ・学級全体で、長唄「鳥羽絵」の一節「ぬらりくらり」の部分を口唱歌で歌い、節回しや間、奏法を確認する。 ・グループで、三味線と口唱歌を交替しながら、「ぬらりくらり」の部分を演奏し、互いに助言し合う。 ○三味線の音色や奏法に気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近付けるためには、長唄「鳥羽絵」の一節をどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・グループで、歌のみの音源に合わせて、「ぬらりくらり」の部分を演奏する。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏の音源を繰り返し聴き、自分たちとの演奏の違いに気付く。 ・三味線の音色や奏法、身体の使い方などに気を付けて、長唄にふさわしい演奏に近付けるためにはどのように演奏したらよいかを、グループで話し合っ工夫し、必要に応じてワークシートの楽譜に書き込む。 ・グループで話し合ったことを参考に、どのように演奏するかについての自分の思いや意図をワークシートに書き、再度演奏する。 										
第3時間目	<ul style="list-style-type: none"> ○長唄「鳥羽絵」の一節を演奏する。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を聴き、グループごとに前時までの学習を振り返る。 ・グループ同士で互いに演奏し合い、聴き合う。 ・「ぬらりくらり」の部分の模範演奏を参考にしながら、「三味線らしい音色で、長唄の雰囲気が表現できているか」という観点で、自分の演奏を振り返ったり、他のグループの演奏を聴いて感想を伝えたりする。 ○題材の振り返りをする。 ・ワークシートに振り返りを書く。 ・振り返ったことについて学級で意見交換し、本題材を学習したことの価値を共有する。 ・学級全体で、「ぬらりくらり」の部分を演奏する。 										

中学校音楽科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点											
3	<p>例えば、「この曲は優しく穏やかな感じがする」と感じ取った生徒が、リズムや旋律に着目し、楽譜を見て歌いながら、「そう感じたのは、四分音符や二分音符が多く、隣り合った音に移っていく、なだらかな旋律が繰り返されているからだ」のように、自分が感じ取った曲想と音楽の構造との関わりに気付くことのできるような指導。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>各 10 × 2</p> <p>20</p>											
	<p>例えば、曲に対して「優しい感じの歌だ」というイメージをもった生徒が、「優しい感じ」を表すために、声の音色や強弱について様々な歌い試す中で、「優しい感じにするために、柔らかい声で、旋律の上がり下がりの動きに合わせて自然な強弱変化を付けて歌いたい」などのような思いや意図をもつ過程を重視した指導。</p>			4	1	見えにくさ	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>各 3 × 3</p>		聞こえにくさ		道具の操作の困難さ	4	2
4	1	見えにくさ	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>		<p>各 3 × 3</p>									
		聞こえにくさ												
	道具の操作の困難さ													
4	2	<p>音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚することが難しい場合は、要素に着目しやすくできるよう、音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。</p>	<p>問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。</p>	<p>10</p> <p>19</p>										

1

1 (6)

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

kyosai-guild